

津ライスニュース

令和4年産水稻 作柄報告(速報版)

令和4年12月12日

津地域農業改良普及センター

電話:059-223-5103

令和4年産水稻の作柄
作況指数は三重県102、中勢103の「やや良」

生育経過

<早期栽培の概要>

育苗期間中は4月上旬に気温が高い日が続いたため、一部で草丈が高くなりましたが、全般に根張りは良好でした。また、4月上旬に降雨が少なく、代掻き作業の遅れが見られました。

田植え作業の中心は、4月第4半旬～5月第1半旬となりましたが、周期的に雨が降っており、雨の合間を縫っての作業となりました。

4月下旬には風の強い日があり、一部で植え傷みをしたところがありました。

5月中頃に曇りや雨の日が多く、日照が少なくなりました。また、5月上旬から中旬にかけて気温が低く経過したため、初期の生育が遅れ、分けつが少ない状況となりました。6月中頃から好天となり、気温が高く推移したため、生育の遅れを取り戻し、分けつも増加しました。出穂期は4月末植えて7月20日頃となり、平年並み～2日程度早い状況でした。登熟期前半となる7月下旬は天候に恵まれ、気温が高く推移しましたが、登熟期中～後半となる8月中旬を中心に雨が多く、日照不足となったため、後半の登熟がやや悪くなりました。

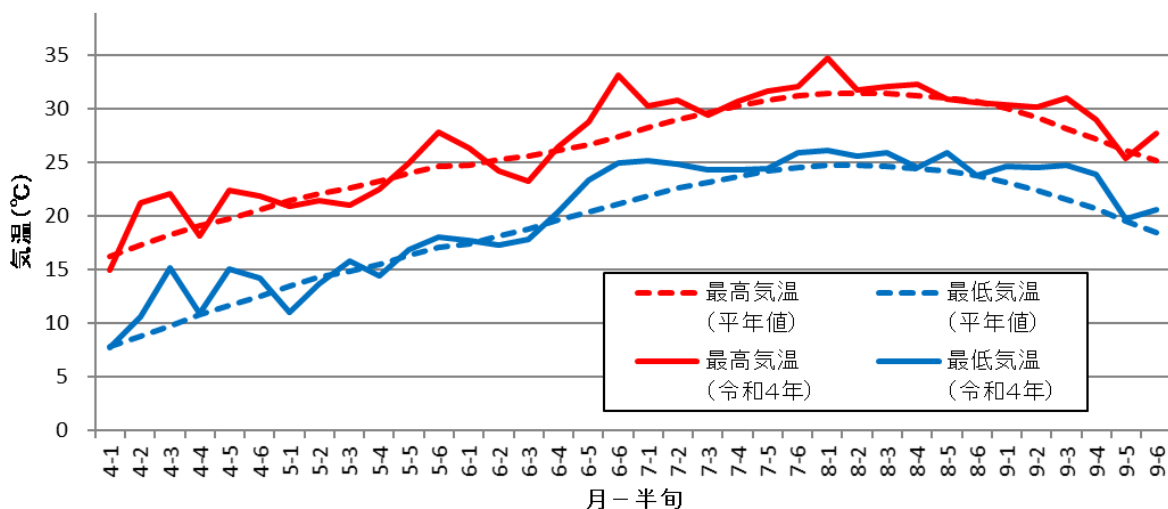
今年の夏は、6月中旬から最低気温が高く推移し、高温障害が多く見られました。

8月は、雨の日が多くなるなど、適期収穫が難しい年となり、一部で早刈りや収穫遅れによる品質低下が見られました。

気象経過

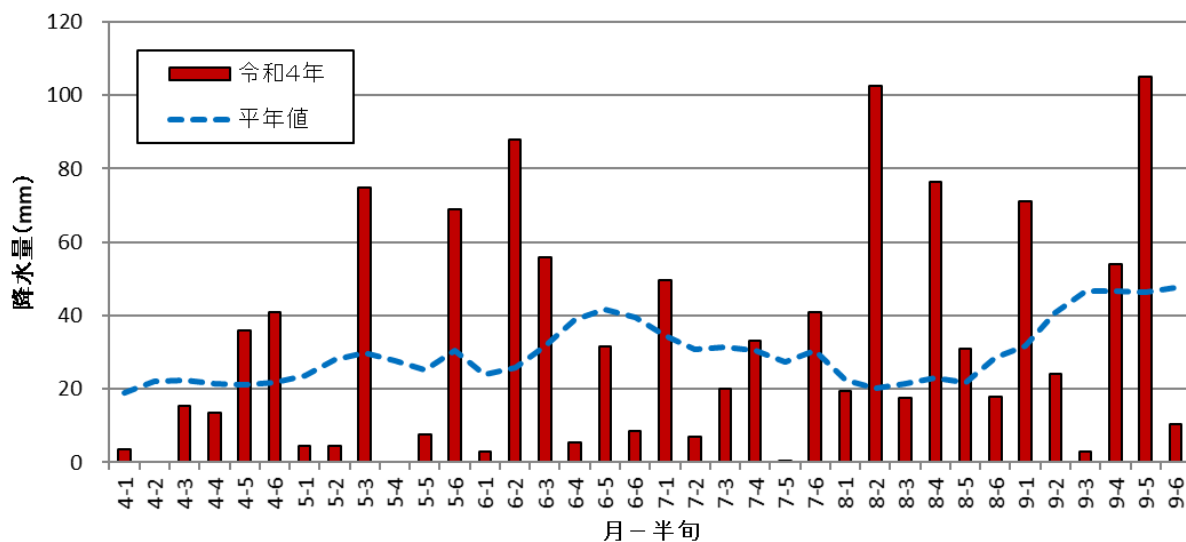
<気温>

5月第1半旬から5月第5半旬にかけてやや気温が低かったものの、以降は平年より高めに気温が経過しました。



<降水量>

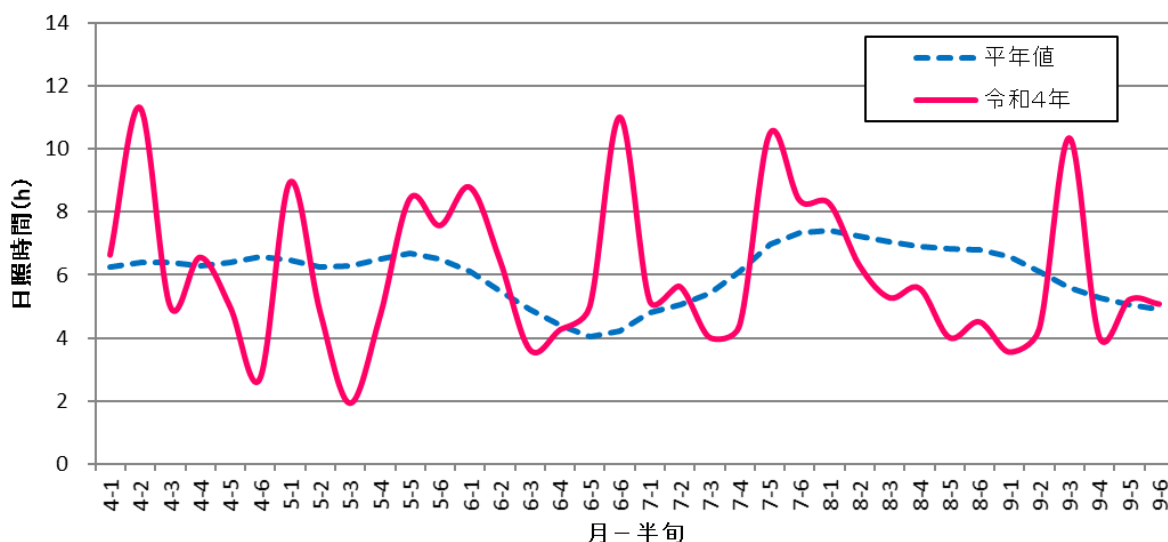
5月はまとまった降雨がありました。6月上旬は降雨が多くなりましたが、6月中旬から7月にかけて降雨は少なくなりました。その後、8月は周期的な降雨が続き、降水量が多くなりました。9月上旬は降雨が少なくなりました。



<日照時間>

5月第3半旬～第5半旬にかけて曇りや雨の日が多く、日照がきわめて少なくなりました。

7月第4半旬～8月第1半旬にかけては日照が多くなりました。それ以降は日照が少なくなりました。



病害虫の発生状況

＜発生概况＞

5月下旬から6月中旬にかけて雨や曇りの日が多くなったことから、葉いもちの発生が各地で確認されました。特に箱施用剤での防除を行っていないところで発生が目立ち、一部でズリ込み症状が見られました。7月下旬以降、再び雨が多くなり、葉いもちの発生が見られましたが、気温が高く推移したため、穂いもちへの移行は少なく、収量に大きな影響はありませんでした。その他の病害については、大きな被害が出るような発生はありませんでした。

カメムシは、昨年、発生量が多かったうえ、越冬量が多く、早くから発生が目立ちました。また、適期に防除ができなかったほ場では、被害が大きくなりました。

飛来性害虫であるトビイロウンカが確認されるなど、被害が心配されましたが、大きな影響はありませんでした。

生育基準田等の調査結果

＜成熟期調査結果＞

本年の生育基準田の調査結果を過去のデータと比較すると、稈長はやや長く、m²当たり穂数がやや多くなっています。

また、農業研究所(嬉野)の作況試験田データを平年値(過去10か年の平均)と比較すると、稈長はやや長く、穂数は少なくなりました。

○R4水稲生育基準田の調査結果

品種	調査地点	移植日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数		出穂期
					(本/m ²)	(本/株)	
コシヒカリ	殿村	4月10日	81.9	19.7	348.4	22.2	7月8日
	安濃	4月27日	94.2	19.1	324.3	19.8	7月21日
	白山	4月25日	100.9	18.7	374.1	21.5	7月21日

○水稲生育基準田の調査結果(過去の調査データの平均値)

品種	調査地点	移植日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数		出穂期
					(本/m ²)	(本/株)	
コシヒカリ	殿村	4月16日	85.2	18.6	381.9	25.3	7月14日
	安濃	4月25日	87.7	18.2	303.2	18.8	7月20日
	白山	4月29日	90.2	18.8	308.6	18.8	7月24日

※H30～R3の平均値

※安濃のデータはR1～R3の平均値

○農業研究所(嬉野)の作況試験田のデータ

品種	年度	移植日 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	出穂期
コシヒカリ	R4	4月25日	89.8	19.1	423.7	7月14日
	平年値(H24～R3)	4月25日	85.9	18.9	410.7	7月14日

<収量調査結果>

生育基準田の収量調査結果は過去の平均を上回りました。過去4年間の平均は概ね平年並みであったため、令和4年産水稻は、作況指数のとおりやや良であったと思われます。

本年産については、①5月の日照不足により初期分けつが少なくなったものの、6月後半に天候が回復したことにより、穂数が平年並みに確保されたこと、②登熟期前半の7月下旬から8月上旬が天候良く、稔実は良好であったため、やや良の作柄になったと考えられます。

○R4生育基準田の収量調査結果

品種	調査地点	わら重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	屑米重 (kg/10a)	千粒重 (g)
コシヒカリ	殿村	524.2	486.5	10.9	22.1
	安濃	712.1	506.3	17.0	22.6
	白山	795.5	558.9	28.4	22.6

○生育基準田の収量調査結果(過去の調査データの平均)

品種	調査地点	わら重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	屑米重 (kg/10a)	千粒重 (g)
コシヒカリ	殿村	553.9	477.7	15.2	21.1
	安濃	616.7	450.6	12.8	21.6
	白山	586.9	443.4	12.8	21.8

※H30～R3の平均値

(参考)中勢地区の作況指数

H30:100、R1:95、R2:95、
R3:99

米品質の状況

<農産物検査結果の概要>

令和4年産米の農産物検査結果によると、津地域の1等比率は24.7%となり、昨年(43.8%)より低くなりました。2等以下に格付けされた理由は、背白、腹白、基部未熟などのいわゆる白未熟粒によるものが主となっています。白未熟粒発生主な原因は高温、日照不足等による玄米へのデンプンの蓄積不足によるものです。登熟期の7月下旬から8月中旬にかけて気温が高く推移したことと登熟後半の8月の日照不足が影響したと考えられます。なお、カメムシの多発による斑点米が多くなりました。

<次年度に向けて>

○土づくり

気候変動により、猛暑や日照不足など異常気象の年が多くなっています。このような条件下で水稲を安定的に生産するためには、根を丈夫に張らせ、土壌に必要な養分がバランスよく含まれていることが必要です。稲わらのすき込みや有機物の施用を行うとともに土壌診断を活用し、ケイ酸などの不足する養分を補うなどして、土づくりに取り組みましょう。

○スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の発生が多かったほ場では、土壌が乾燥して硬い時期に、低速で土壌を細かく砕くように耕起を行い、貝を物理的に破碎するとともに冬の寒さにさらして殺貝しましょう。

○病害虫防除

いもち病については、収量に大きく影響する病害であり、まずは葉いもちの発生を抑えて穂いもちへの移行を防ぐことが肝要です。箱施用剤の使用など、予防を中心とした適期防除を心がけましょう。

本年産では、カメムシの被害は比較的少なく済みました。しかし、暖冬傾向が続いているため、カメムシが越冬しやすい環境にあり、今後も多発が懸念されます。不稔籾の発生や斑点米により収量、品質の低下要因となります。ほ場周囲の荒廃地対策や草刈り、穂揃い期以降の地域一斉防除などを組み合わせて、カメムシの被害を防ぎましょう。

○適切な水管理

活着後は、できるだけ浅水管理(2~3cm)にして日中の水温確保に努め、分げつの発生を促しましょう。本年度のように5月の天候がすぐれない場合には特に初期の水管理に注意が必要です。

水を溜めっぱなしにすると、土中の酸素が不足することによって、根が弱り、下葉の黄化や枯れ上がりが進みます。中干しまでに間がある場合は、一旦軽く干して再度入水しましょう。

中干しは、生育状況に応じて開始時期を調整しましょう。1株20本程度の茎数が目安です。土壌表面に小さい亀裂が入れば中干し終了です。中干し後は、こまめな間断かん水を行い、土壌に適度な水分と酸素を供給し、根の健全化に努めましょう。

落水時期は収穫作業に支障が出ない程度(収穫7日前以降)に遅らせ、後半まで適度な土壌水分を保持して収量・品質の低下を防止しましょう。